

1615年の一国一城令・武家諸法度の発令後も残置され、大地震で崩壊後は再建された「八代城」。なぜ「八代城」は残置・築城されたのか？

この課題について、子ども達はどのような予想を立て、どのような根拠に基づいて、どのような考えを発表するのか、ご覧ください。

社会科(歴史的分野)学習指導案

日 時 平成19年11月13日(火) 第2校時

場 所 八代市立第一中学校 1年8組教室

年 組 八代市立第一中学校 1年8組

男子19名 女子18名 計37名

指導者 八代市立第一中学校 教諭 児嶋顕伸

1 単元名 「身近な地域の歴史～八代の城を中心に～」

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、身近な地域の歴史を調べる活動を通して、地域への関心を高め、地域の具体的な事柄とのかかわりの中で我が国の歴史を理解させるとともに、歴史の学び方を身に付けさせることを主なねらいとしている。

八代は「古事記」「日本書紀」にもその地名が残る歴史ある地域で、中世以降は城下町として栄え、現在、熊本県で第2の人口をもつ県内有数の都市となっている。

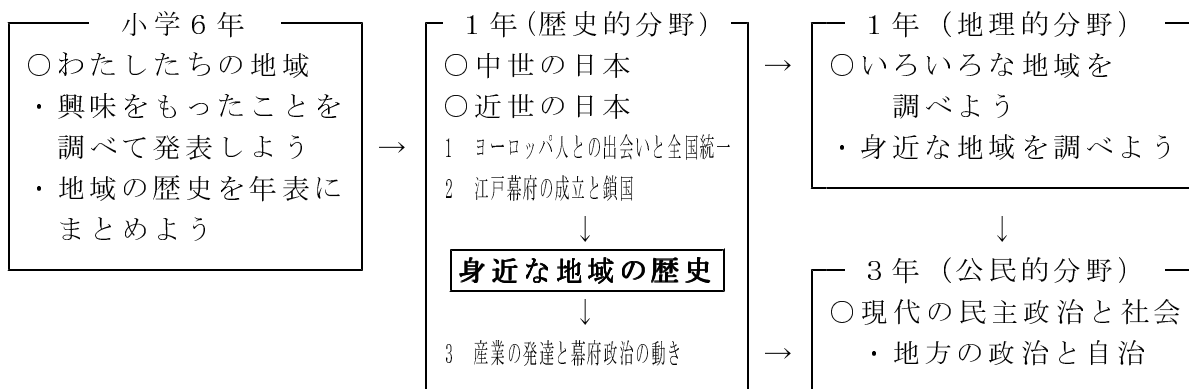
八代の城は、南北朝時代以来、八代を治めた名和氏が築いた山城である古麓城に始まる。その後、八代の支配は相良氏、島津氏へと移るが、豊臣秀吉の九州制圧後、八代は佐々成政、さらには小西行長に支配を任されることとなる。天正16(1588)年、肥後に入った小西行長は、古麓城を廃し、海外との貿易や水軍の指揮をとるのに適した場所であった球磨川河口の三角州に麦島城を築かせる。その後、関ヶ原の戦いで豊臣方についた小西氏に代わり、加藤氏が八代の支配を任されていた元和5(1619)年、大地震で麦島城は崩壊したため、元和8年(1622)、現在の松江の場所へ築城(松江城)されることとなる。

元和元(1615)年のいわゆる一国一城令後の、しかも同年の武家諸法度において新城の築城を強く禁止した後の残置・築城は異例で、どうして肥後の国が一国(藩)二城となったのか、「八代城」がなぜ残置・築城されたのかはその理由も諸説あるところである。

このように八代には様々な歴史が残っており、このような八代の歴史に関心をもたせることにより、地域への関心を育て、我が国の歴史により具体性と親近性をもたせながら理解を深めさせるとともに、歴史の学び方を身につけさせることは重要なことである。

(2) 系統観

本単元に関する系統は以下のとおりである。



(3) 生徒観

本学級は男子19名、女子18名、計37名の明るいクラスである。

社会科の学習については「覚えることがたくさんある」「暗記することは苦手」などの理由で「あまり好きではない」生徒が半数ほどいるが、地図帳や資料などを使っ

ての調べ学習などには意欲的に取り組む。地理的分野と歴史的分野、公民的分野の中では、歴史的分野が好きと答えた生徒が多く、各分野の中では歴史的分野に対する関心は高い。

これまでの小学校の身近な地域の歴史についての学習では、社会科見学旅行で、田の川内古墳や1200年ほどの伝統のある八代神社、後醍醐天皇の皇子である懐良親王陵墓、八代城（松江城）代であった松井氏の松浜軒などの史跡めぐりをしているが、見学という受け身的な学習の中で、これらの史跡を我が国の歴史と関連づけてとらえていないという面がある。

また、身近な地域の歴史について生徒自ら調べる活動を通して学習したという経験もほとんどなく、我が国の歴史の変遷とともに、めまぐるしく変化した八代の歴史について関心をもっている生徒は少ない。特に、本校校区にある八代城（松江城）についても現在、神社が建てられて八代宮となっていることもあり、その歴史については知らない生徒が多く、山城の古麓城から平城の麦島城、八代城（松江城）へと移った「八代城」についての関心は低い。

(4) 指導観

以上のような実態を考慮し、次の観点を重視しながら学習を展開していきたい。

- 我が国の歴史と八代の歴史とを関連づけてとらえることができるよう、江戸時代初期まで（鎖国まで）の我が国の歴史を学習した後に、本单元「身近な地域の歴史～八代の城を中心に～」を位置づける。
- 地域の特性や資料などを考慮し、南北朝時代から江戸時代初期にかけての時代を中心に扱い、その中でも八代の政治、文化の中核となった「八代城」を中心に引き上げる。
- 八代の歴史を調べる活動については、八代市史や資料、インターネット、市立図書館、市立博物館などを活用して情報を収集させ、生徒が主体的に探究できるようにしたい。
- 八代の歴史を調べる活動は、生徒が設定したテーマをもとに生徒の実態も考慮して班を編成し、班での活動を中心にして調べ、まとめ、発表させる学習を展開したい。
- 一国一城令、武家諸法度発令後の「八代城」の残置・築城については、調べ学習の発表会の後に、特別に取り上げてクラス全体で追究・考察させ、歴史を調べる方法や楽しさをさらに学ばせたい。

3 単元の目標

【確かな意欲】

南北朝時代から江戸時代初期までの「八代城」を中心とした八代の歴史を調べる活動を通して、地域への関心を高めるとともに歴史を学ぶ楽しさを学ばせ、今後も日本や地域の歴史を学んでいこうとする意欲を高める。

【確かな知識】

調査活動を通して、八代の歴史の具体的な事柄とのかかわりの中で、我が国の歴史を理解させる。

【確かな判断】

「八代城」が残置・築城された理由を多面的・多角的に考察させ、根拠を明確にししながら、自分の考えをもたせる。

【資料活用の技能・表現】

八代の歴史を調べる活動を通して、歴史の学び方を身につけさせるとともに、調べたことを、まとめ方や発表の仕方を工夫してわかりやすく発表させる。

4 単元の指導計画(10時間取り扱い)

過程	次	時	主な学習活動	評価
つかむ	1	1	「八代城」を見学したりして、八代の歴史に興味をもつ。	意欲的に見学し、八代の歴史に対する関心を高め、意欲的に調べようとしている。 (観察)【関心・意欲・態度】
イメージする	2	1	八代の歴史について関心あるテーマを設定する。	我が国の歴史をもとにして、身近な八代の歴史的事象の中から、適切なテーマを考えることができる。(学習ノート)【思考・判断】
再構成する	3	4	設定したテーマに基づいて班ごとに計画を立てて、調べ学習を行い、自分達が考えた方法でまとめる。	八代の歴史に関する文献、図表など様々な資料を収集し、適切に選択、活用するとともに、追究し考察した過程や結果を年表や新聞などにまとめることができる。 (壁新聞など)【技能・表現】
定着させる	4	1	それぞれに調べてまとめたことを、班ごとに発表する。	八代の歴史の具体的な事柄とのかかわりの中で、我が国の歴史を理解することができる。 (壁新聞など)【知識・理解】
				調べたことを、まとめ方や発表の仕方を工夫して、わかりやすく発表することができる。 (壁新聞など)【技能・表現】
ふくらませる	5	2	学習したことをもとに一国一城令や武家諸法度の発令後に「八代城」が残置・築城された理由を予想、追究、まとめ、発表し、お互いに学びあう。	課題について様々な資料を適切に活用して多面的・多角的に考察し、根拠を明確にしながら自分の考えをもち、わかりやすくまとめ説明することができる。(学習シートなど) 【思考・判断】【技能・表現】
		1 本時		課題を追究する活動を通して歴史を学ぶ楽しさを知り、これからも歴史を学んでいこうとする意欲を高めることができる。 (学習シート)【関心・意欲・態度】

5 本時の学習

(1) 本時の目標

○一国一城令、武家諸法度が発令された後でも、「八代城」が残置・築城された理由を追究する活動を通して、歴史を学ぶ楽しさを知るとともに、今後も主体的に歴史を学んでいこうとする意欲を高める。

(2) 本時の展開

過程	時間	主な学習活動	教師の指導と支援 (予想される生徒の反応)	その他 教材・資料等
導入	5分	1 前時までの復習をする。 【一斉】	○古麓城、麦島城、八代城（松江城）の時代の八代の歴史を復習する。	発表で使った資料
展開		2 本時の課題を追究する。		カード 資料 など 学習シート 評価① 学習シート
	3分	(1) 一国一城令、武家諸法度について復習をする【一斉】	・肥後は大きな国だから。 ・八代は昔から重要な地域だったから。	
	20分	(2) 課題に対して、自分達が考えた理由を発表する。 【一斉】	・重要な港があったから。 (貿易のため) ・薩摩藩（島津氏）への防衛のため。 ・キリスト教徒の弾圧のため。 ・異国船警備のため。	
	8分	(3) お互いの発表に対する質疑応答などを行う。 【班・一斉】	○根拠を示しながら、意見発表、質疑応答などの話し合いをするように支援する。	
	7分	(4) 各理由を聞いて、自分の考えをまとめる。 【個人・一斉】	○お互いの発表をきいてみて、最終的にどの理由を支持するかを意思表示させる。 ○それぞれの意見を認め合うよう支援する。	
まとめ	7分	3 本単元の学習のまとめをする。【一斉】	○「八代城」を中心とした八代の歴史を調べてみての感想を書かせる。 ○数人の生徒に発表させる。	学習シート 評価②

(3) 本時の評価

- ①課題に対する理由を根拠に基づいて説明することができたか。（観察、学習シート）
- ②歴史を学ぶ楽しさを知り、今後も主体的に歴史を学んでいこうとする意欲を高めることができたか。（観察、学習シート）